

## 「今月の雑談」

最初に “pangram” をご存知でしょうか？

pan- (全ての) と gram (文字) の意味のギリシャ語になりますが、日本語で言うと「いろは歌」になります。英語では昔にタイプライターのフォント印字テストなどで使用される (ちょっと古いですね) 文として、

“The quick brown fox jumps over the lazy dog.” 「すばしっこい茶色の狐はのろまな犬を飛び越える。」があり、これは、アルファベットの 26 文字を全て使用 (35 文字なので、同一文字が複数回もあります) しています。

これに対し、完全 pangram (全部の文字が一度しか使用されない) として、次の文があります。しかも、英語でよく使用される記号 5 種類も含まれています。

“New job: fix Mr. Gluck’s hazy TV, PDQ!” 「新たな仕事：グルックさんのもやがかったテレビを修理、至急！」  
注：PDQ は、“Pretty Damn Quick” の略となります。

英訳の点検をしている際に気がつくのが、英語でよく使用される記号のコロン〔:〕や感嘆符〔!〕の前にスペースを挿入している場合が見受けられます。または、前カッコ〔(〕の次や閉じ括弧〔)〕の前にスペースがある場合もありますが、英語では、コロン、カンマ、ピリオド、アポストロフィ、感嘆符、疑問符や、閉じ括弧の前にはスペースを入れません。記号の後にスペースを入れます。上記の完全 pangram で使用されている記号もその記号の前にはスペースがないことを確認ください。

先月の紛らわしい英語の発音の続きで今回は、lose と loose について、(いつもながら、発音をカタカナ表記するのは良くないのですが、簡単に記述するためにカタカナ表記を使います。)

lose の発音はルーズ、動詞で、過去、過去分詞は lost です。意味は「失う、負ける、なくす など」です。  
loose の発音はルースで、形容詞での意味は「ばらばらの、ゆるい」で、動詞では、「緩む、自由にする など」です。

日本語のルーズリーフやルーズ・ソックスは、もとは loose leaf (ばらばらのページ) や loose socks (女学生のダブルダブ靴下) からきていて、「時間にルーズ」との表現も英語の形容詞から考えれば、loose なので、本来ならば、ルース と発音すべきですが、もう、日本語として定着してしまっている和製英語と言えるのかと思います。通訳などで英語にする際には、注意しないと native の方には全く伝わらなくなってしまいます。

そういえば、以前カリフォルニアで生活した最初の頃に、プールの水を綺麗にするための漂白剤を店に買いに行った時の赤面した話をひとつ。塩素系の漂白剤で Chlorine というものがあり、これも l (エル) と r (アール) が含まれた日本人には、困った発音 (!?) で、意識して発音したのですが、固形のものと同ボトル入りの液体のものがあり、液体のものを購入したいと思い、何気なく“リキッドタイプ” Chlorine と日本語英語での発音をしたところ、ン? と怪訝な顔をされてしまい、数回繰り返しましたが、全く通じず、最後にやっと、「ああ リクウイッドタイプね。」と相手が推理して理解してもらったことがありました。日本語化している英語の発音問題に直面した経験でした。

このように日本語化してしまっている英語の発音は、結構たくさんあり要注意で、チケットはティケット、ラジオはレイディオ、テレビはティーヴィーかテレビジョン、などなど、また、和製英語では、車のハンドルは steering wheel、ウィンカーは turn signal、リンスは conditioner、コンセントは outlet、ノートパソコンは laptop、ホッチキスは stapler など日本語での日常会話で使っている和製英語も英語で話す際には注意が必要です。

日本語英語以外の発音で、(私だけかもしれませんが) 紛らわしいものとして思い浮かぶもので次のようなものがありますね。

・憎むを意味する hate (ヘイト) と 高さの意味の height (ハイト)

- ・ 投票（する）を意味する poll（ポール）と 棒・竿などの意味の pole（ポール）
- ・ 書くを意味する write（ライト）と 正しいなどの意味の right（ライト）

これらの同じ発音や似た発音の言葉は、会話の中では文脈によって明らかになりますが、思い込みがあると異なった意味として理解してしまうことがあるので、英語を聞く場合には、話された英語をイメージとして頭の中に描いて理解することが必要かと思います。

次に、日本語では区別がないが英語では区別する簡単な動詞について、少し、書いてみます。

聞く hear と listen

hear は、自然と何かが聞こえてくる時（集中していなくとも）の状態

listen は、意識的に集中して聞こうとする状態で

使われます。

例えば、会議など後ろの席から発言者の声が聞こえない場合には、I can't hear you. と言ったり、発言者が後ろの席の人に確認するために、Can you hear me? と言ったりします。

listen の場合は、意識したり集中したりして聞くことなので、例えば子供を叱る時などに、Listen to me! と言ったり、何か物音がして確認しようとした場合などに、I listened carefully and quietly but I couldn't hear anything. などの表現となります。

ちなみに日本では「英語のヒアリング力」などの表現がありますが、hear と listen の違いから言うと微妙な表現ですね。hearing test は、耳鼻科などでの聴覚テストで、英語の聞き取りテストの場合は、listening test と言います。

似たような動詞の使い方として sound もあるので、幾つか例をあげると、It sounds good. (それはいいね)とか It sounds like ~. (~のように聞こえる)などの言い方も良く使います。

話す についても 聞く に続いて書いてみようかと思いましたが、少し長くなるかもしれないので、次回の話題として、今回はこれまでにします。